

前ページの基本的事項について個別に説明します。

①組織のかたちの決定

町内会や自治会などを活用して自主防災組織を結成する場合でも、組織のかたちにはいくつかのタイプがあります。

どういった組織にするかはそれぞれの長短があることから、地域の実情に応じて検討することが大切です。

【いろいろな自主防災組織のかたち（町内会を例として）】

型	説明	役員構成
重複型	町内会の組織を、そのまま自主防災組織に兼ねさせるかたち	町内会の代表者、役員が自主防災組織の代表者、役員を兼ねる
内部組織型	町内会の下に、別に自主防災部門をつくり、その部門を自主防災組織とするかたち	町内会役員とは別に、独自に代表者、役員を選ぶ
別組織型	町内会が中心となり、町内会とは別に自主防災組織を結成するかたち	独自に代表者、役員を選ぶ

②組織の編成案の作成

自主防災組織の一般的な編成（組織図）と役割は、次のとおりです



このほか、地域の実情に応じ、水防班、巡視班などの設置も考えられます。

③役員の人選

組織のかたちや編成が決定した後は、会長、副会長、班長などの役員の人選を行います。役員、特に班長には防災活動の経験がある人が望ましく、総会までに最終的な候補者を立てておく必要があります。

④規約案の作成

自主防災組織が組織として活動するには、規約を定めることが必要です。規約を定める方法としては、次の2つの方法が考えられます。

1

新たに自主防災組織の
規約を定める方法
(8ページの資料を参照)

2

町内会や自治会などの
規約を改正して
対応する方法

規約は、最低限、次の項目について定めるようにします。

規約に
盛り込む
べき項目

組織の
名称、目的

事業

役員の
選任方法、
任期

会議
(総会、役員会)

会員

経費に
関すること

⑤活動計画案の作成

年間活動計画の案をたてます。防災活動は多岐にわたりますので、できるところから少しずつ取り組みましょう。

町内会や自治会の行事と兼ねて、自主防災組織の行事や普及啓発活動を行うのも、取り組みやすさ、予算の面からも有効な方法です。

【活動計画の作成例】

行事予定

5月 日 役員会、総会

6月 日 防災訓練

9月 日 市総合防災訓練参加

12月 日 防災講演会の実施

その他の活動

自主防災新聞の発行
(町内会報と同時発行)



⑥収支見込み

自主防災組織の活動に要する経費について、収支の見込みを出します。方法を工夫することで、経費をかけずに活動することもできますので、収支見込みをたてる際は、地域実情、活動内容をよく検討した上でたてましょう。